

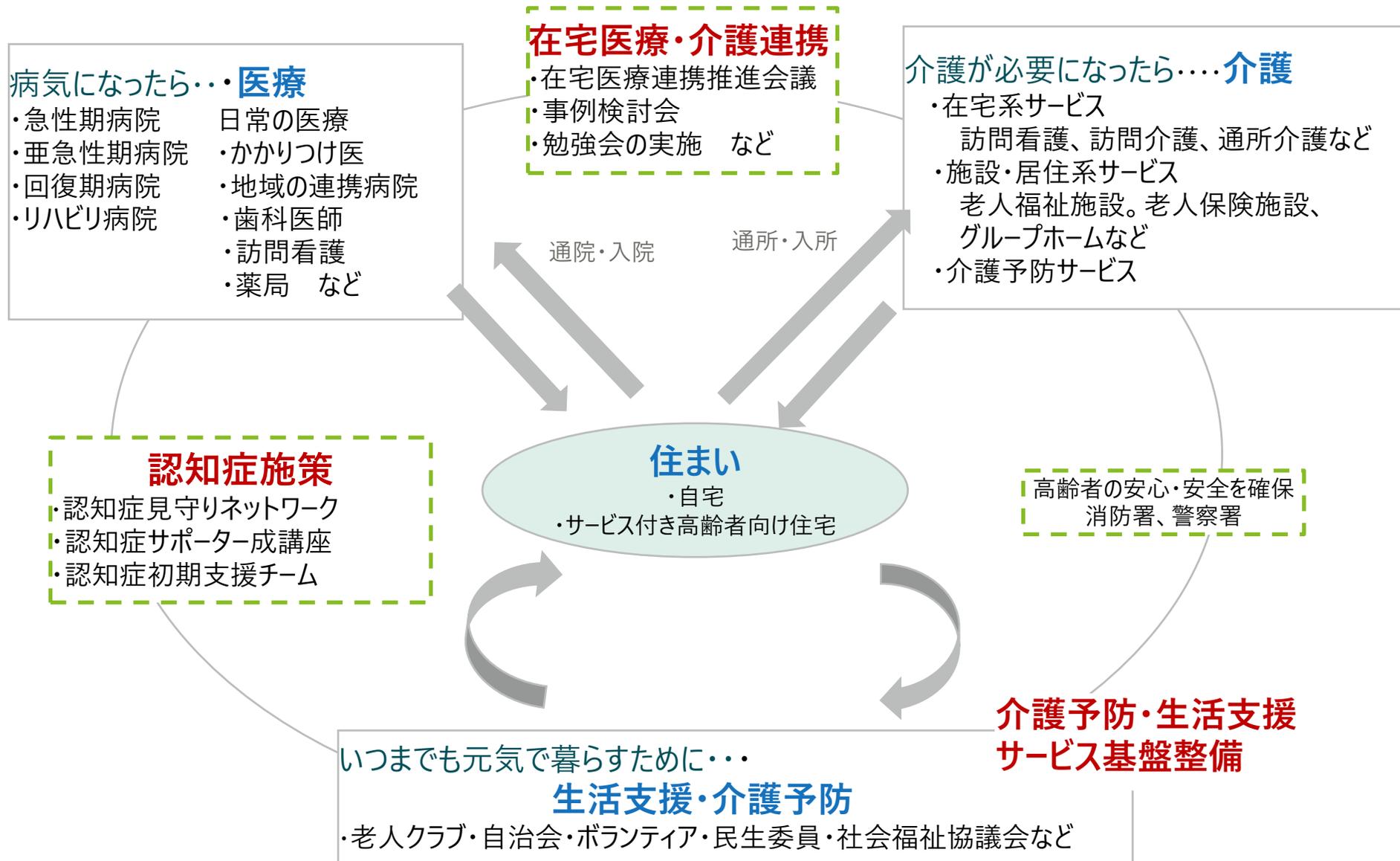
令和6年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連調査・講師人材養成事業 事前学習プログラム

在宅医療におけるケアマネジャーの役割とは

日本介護支援専門員協会 副会長

小林 広美

その人らしい暮らしを支える



多職種連携が必要な背景

①自分自身が望む暮らし方を選択し生きる・・・

- 家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい46%
- 自宅で家族の介護と外部サービスがあれば自宅で介護を受けたい24%
- 有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい12%

⇒ 多くの人は住み慣れた地域において自宅で生活することを望んでいる

その人らしい生活を実現するための連携

②今後の介護保険を取り巻く状況

- 人口減少、少子高齢化、高齢者のみ世帯増加、8050世帯の増加、貧困世帯の増加、障がい者の高齢化などが進行⇒生活課題を複雑・多様化
- 高齢者には、慢性疾患による受診が多い、疾病の罹患率高く、複数の疾病にかかりやすい、認知症の出現率が高いなど医療・介護ニーズが複雑化・多様化している。
- 介護・福祉・医療だけで生活が成り立つわけではなく、家族や近隣との関係、住まい、経済力、生きがい活動など生活にはさまざまな要素が関係している。

③在宅療養の強化

- 病気の治療終了後も生活面などでケアを必要とする人が増えた。
- 入院の長期化を避けるために病院入院時から退院の生活を見据えた療養の準備に取り組むようになった。
- 自宅での療養生活が推進されるようになった。

早期からの意思決定支援の必要性

認知症高齢者の増加、高齢者単身世帯の増加、
身寄りがない人など

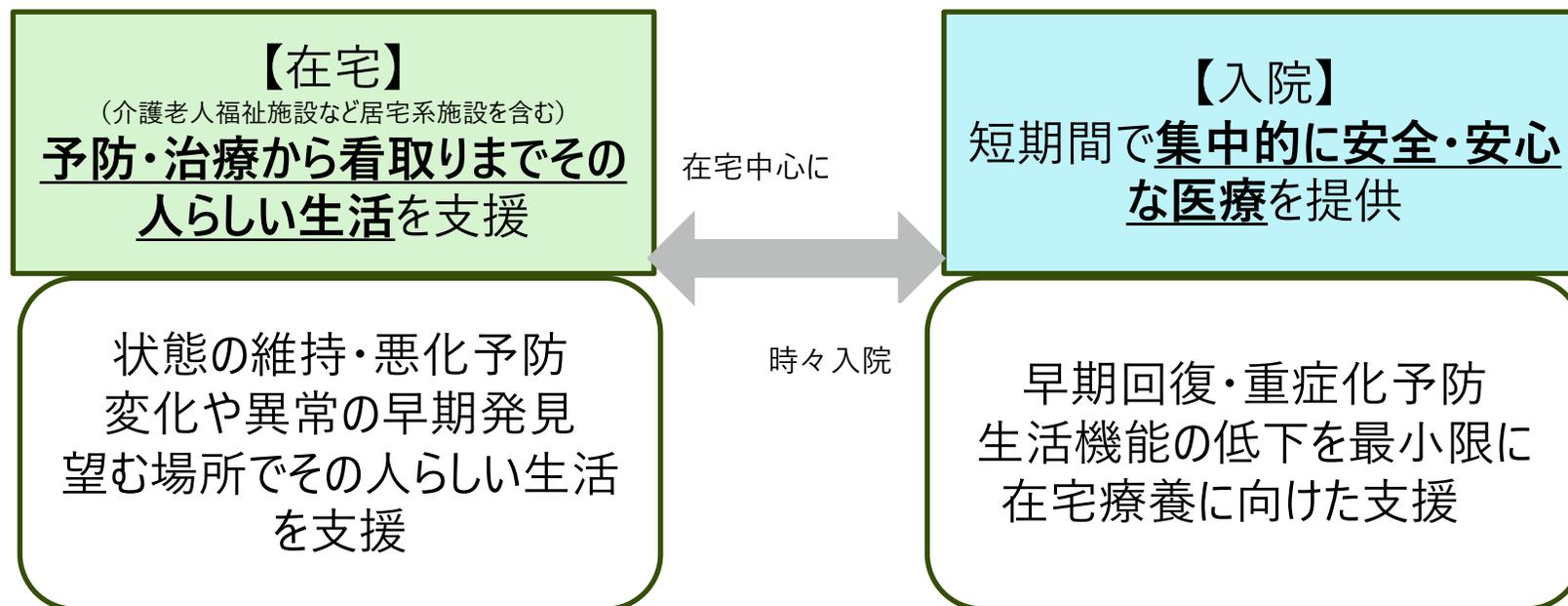
患者像の複雑化と求められる医療

複雑な状況にある患者が急増する中では、
集中的な入院医療と生活を支える在宅医療が必要

高齢化の進展

- ◆ 高齢者（特に75歳以上）の占める割合の増加
- ◆ 65歳以上の高齢者のうち認知症高齢者の増加
- ◆ 65歳以上被保険者、要介護（支援）認定者、介護サービス利用者の増加
- ◆ 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯の増加

患者像の複雑化



医療との円滑な連携を実現するために ～介護支援専門員が実践していること～

- 自分らしい暮らしを実現したいという意欲を支え続ける
- 疾患や障害だけを見るのではなく、生活のさまざまな関係性の中で疾患を捉える
- 生活の変化を予測する
- 疾病および身体、心理、環境、人間関係の変化等が生活に及ぼす影響を確認する
- 疾病や傷害に対する心理的配慮をしながら、高齢者の不安や焦り、諦め等の感情をきちんと受け止める
- 利用者・家族それぞれの疾病や障害に対するニーズを把握する
- 利用者家族の疾患に関する認識のずれを把握する
- 悪化の防止、予防の視点を持ったケアプランを作成する
- 疾病の重度化、症状の進行を早期に発見する
- 多職種連携、チームで支える

入退院時における医療連携

1) 入院前の医療情報の把握

傷病歴 入退院履歴 かかりつけ医 緊急時の連絡体制

治療・指導内容 経過（守られているか）等

健康状態や変化、本人の病気に対する認識・理解

2) 入院時の情報提供

3) 入院中の情報収集・共有

退院後の生活に向けた準備と調整

4) 退院に向けた情報収集と対応

退院後の在宅生活を予測しながら必要な情報交換と準備

療養状況・生活状況の把握と予測

1) 利用者の疾患の状態や今後予測される状態についての把握

< 本人・家族 >

- ・病気、予後、治療方針 等の理解や考え方
- ・不安、抑圧など心理的な課題等
- ・医師との関係（治療や療養、説明等についての満足度など）

< 生活状況 >

- ・心身機能・活動の状況（環境評価を含む）
- ・内服、口腔、栄養

2) かかりつけ医等への情報提供

状態・状況に応じたチームアプローチの実践

1) 利用者自身の「望む暮らし」の実現に向けて

- ・症状の改善、能力・生活機能の改善の可能性の検討
- ・症状・生活機能の低下などのリスクに対する検討
- ・多職種連携

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・管理栄養士・理学療法士・
作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・精神保健福祉士・
医療ソーシャルワーカー・あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 等

2) 看取り (ACP 意思決定支援)

- ・在宅医療にかかわる機関との連携
- ・在宅で看取りに対応できない場合 (医療機関・介護施設等) の連携

状態・状況に応じたチームアプローチの実践 (事例)



75歳 脊髄小脳変性症
主訴：歩行が困難になった

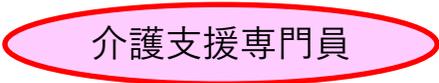
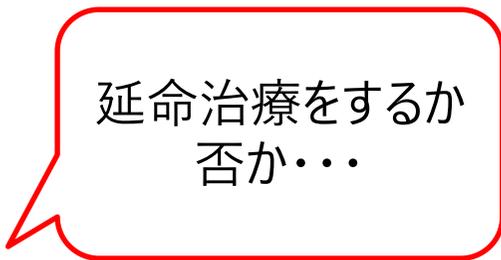
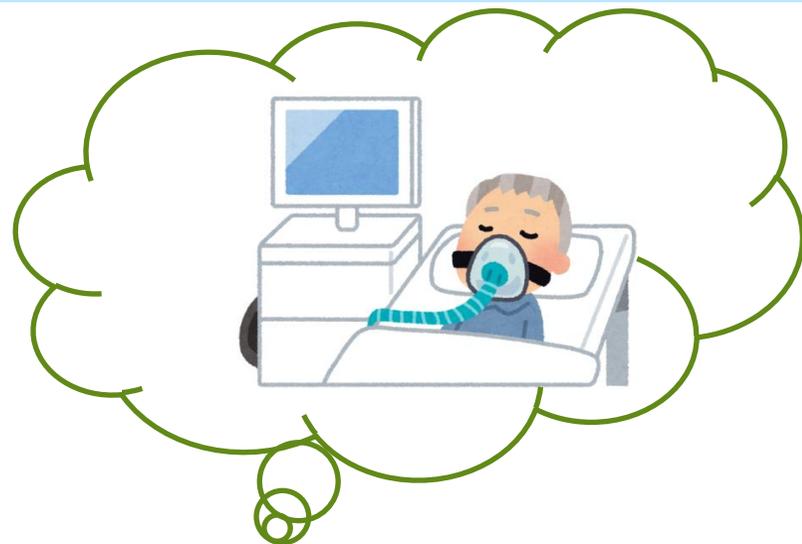


指示

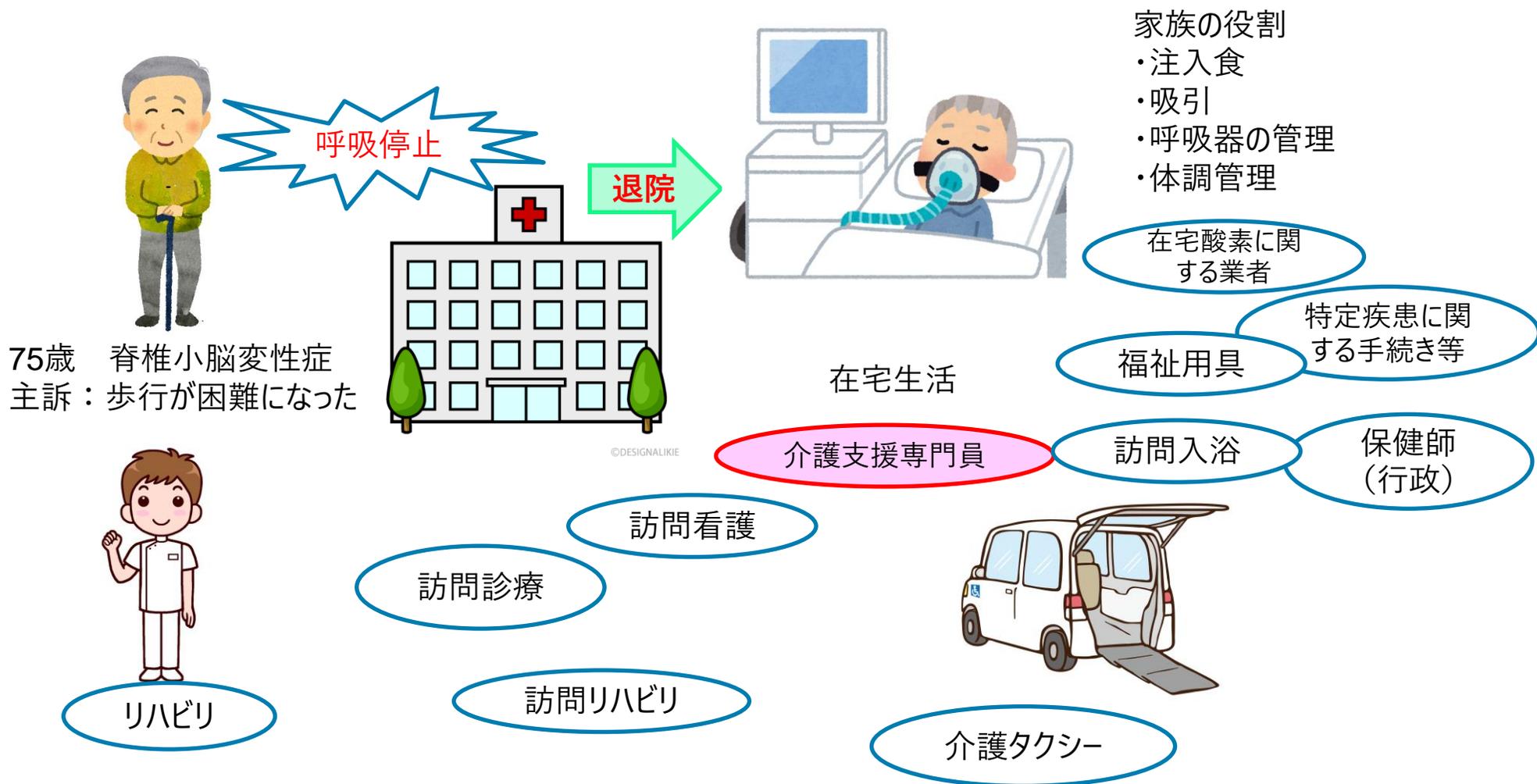


主治医

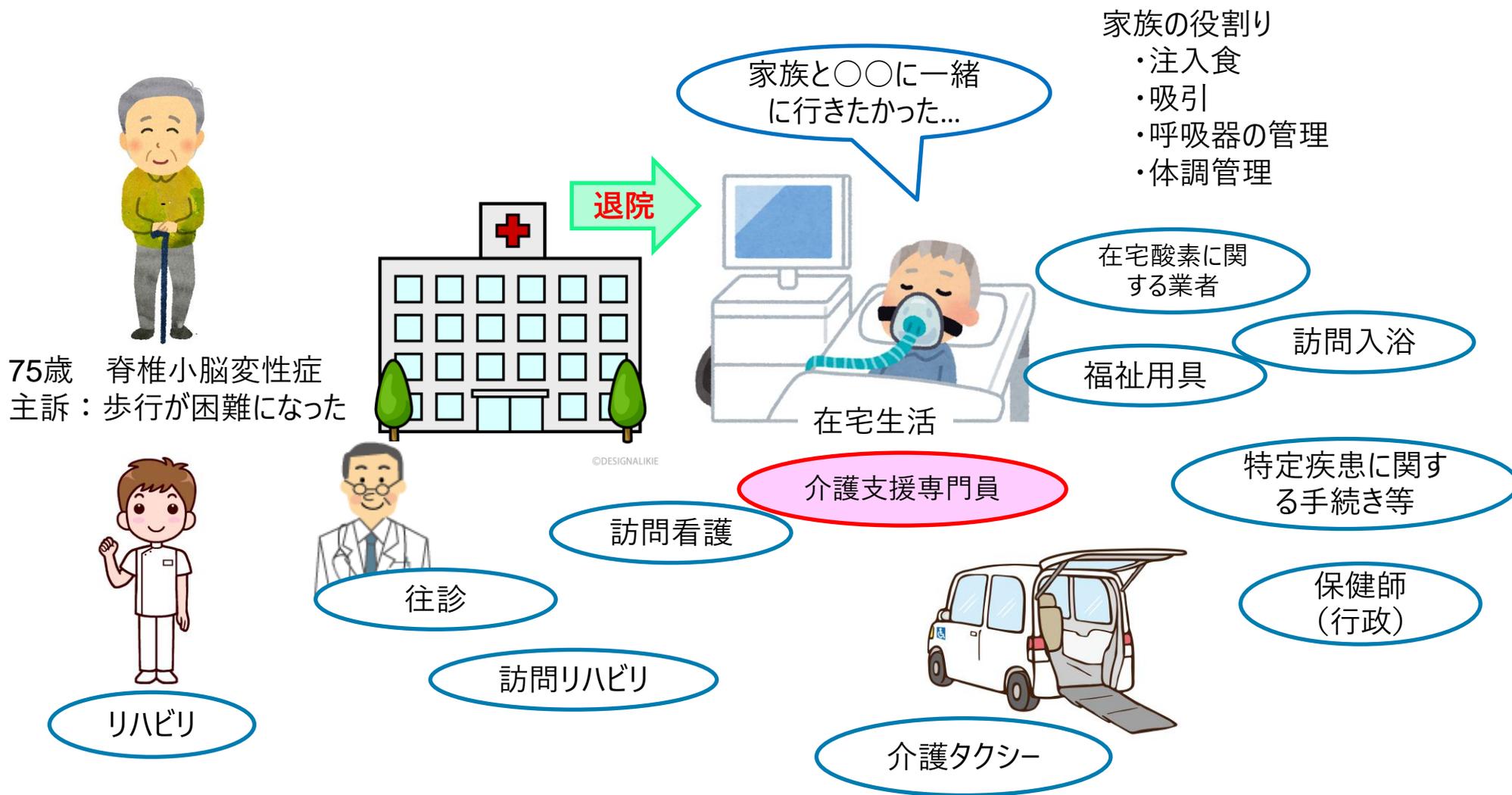
状態・状況に応じたチームアプローチの実践 (事例)



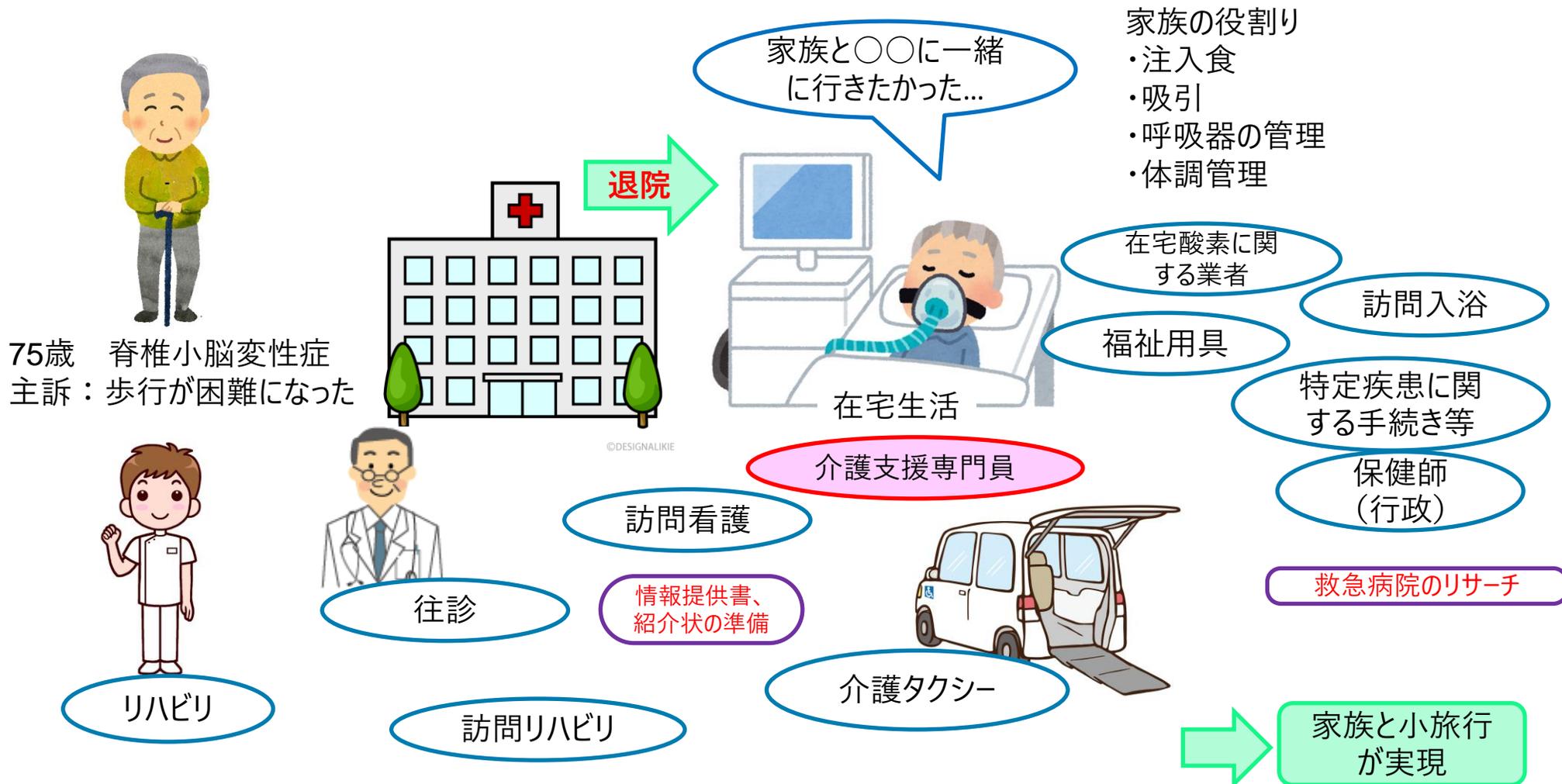
状態・状況に応じたチームアプローチの実践 (事例)



状態・状況に応じたチームアプローチの実践 (事例)



状態・状況に応じたチームアプローチの実践 (事例)



地域における在宅医療の推進に向けての取り組み

在宅医療・介護連携推進事業

【地域包括支援センター】

- ・地域の医療介護資源の実態把握、認識共有・地域課題の抽出等多職種連携、「顔の見える関係づくり」
- ・研修等により互いの専門性の理解「共有言語の構築」
- ・切れ目ない在宅医療・介護提供体制の構築、相談窓口の設置
- ・効率的な情報共有のための取り組み
- ・地域住民への普及啓発

→現状分析、課題抽出、施策立案・実施